大ナゴヤ大学　平成21年度報告資料（準備からの振り返り）

NPO 法人 大ナゴヤ・ユニバーシティー・ネットワーク　　**日付** 平成 22 年 6 月 26 日

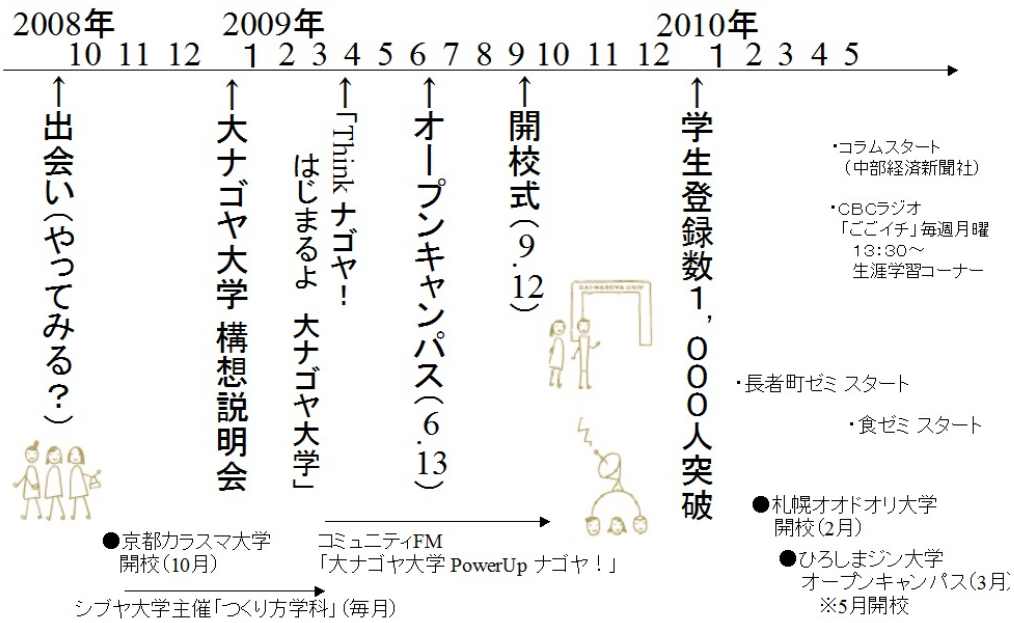
大ナゴヤ大学 開校前準備室 当時から NPO 法人設立。事業初年度（3 月末まで）のふりかえり

本報告資料では、2008 年冬に大ナゴヤ大学を立ち上げようと有志が集まり、共感・支援の手を差し伸べた方々との出会いによって、開校、NPO 法人として初年度を終えた活動を振り返る報告資料です。

今後は、具体的な評価指標、事業ごとの単年度評価・今後の展望を掲載することで、大ナゴヤ大学の現状を広くステークホルダーの方々に公開していきます。

※本資料は、平成 22 年 6 月 26 日に開催する、大ナゴヤ大学報告会にて配布・説明を目的とした資料です。

開校までの道のり（準備⇒説明⇒チーム作り⇒資金調達）



開校前の組織づくり

2008年9月、それまでより名古屋より個人・NGO の新事業企画として特定非営利活動法人シブヤ大学にそれぞれが個別のルートで問い合わせていた中で、「京都カラスマ大学」の開校支援で東京と京都を往復していた名古屋出身のディレクター 近藤ナオが帰郷の際、武藤（N-MRAK）、加藤が 3 人で出会う事から、名古屋開校に向けたフィージビリティースタディを行うこととなった。

それ以前に、個別で近藤ナオよりシブヤ大学の取り組みを聴いていた者、なごや環境大学、生涯学習事業、NGO 団体のリーダー、イベント会社、クリエイター、製作プロダクションなど、「候補者と 100 人会おう」という形でヒアリングを開始。

当時の仮想学長候補は 20 代の若者、あるいは姉妹校ネットワークで初となる女性をたてて、オトナで支援するモデルが望ましいと考えられていた。

資金調達目標は、開校準備の決断を行う 2009 年 3 月末までに 400 万円。12 月~1 月時点でたいへん共感された方が身近に働きかけ、50 万円が手元資金として入ることとなった。

12 月~1 月時点で現在の体制の大元となるコアスタッフ、理事、用務員の方々に出会っている。

特に現理事の原田さとみ氏の人脈紹介により早い段階で山田（雅）名古屋市副市長への面会、NPO 法人 MIJP、神谷デザイン事務所 神谷利徳氏へとつながり年末の説明会実施へと進んだ。

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

初の職員会議 ～ 毎週定例化 ～

2009 年 2 月 5 日、中部電力株式会社 本社会議室で行った初の全体職員会議にて、体制を決定。

学長、副学長、事務局長が決まった。

その後、「各企業や行政へのアプローチも含め、企業や行政管理施設での会議室利用」を進める。

しばらく転々と会議室・企業での会議を行った後、メンバーの会社である、有限会社ピース、株式会社クーグートで実施するようになり、毎週月曜日10：30より職員会議が継続して行われている。

MID-FM ラジオスタート

NPO 法人メイド・イン・ジャパン・プロジェクト（MIJP）が放送を行っていた番組にゲスト出演のきっかけにより、次プログラムの枠があることを知り、番組枠の利用を要望。

問題は、番組の運営であったが、クリス・グレン氏の活動するPPF より、ラジオパーソナリティースクール卒業生である行天 貴之氏が担当。

ジングルの録音を大ナゴヤ大学職員会議参加スタッフで実施した。クリス・グレン氏によって命名された【大ナゴヤ大学 Power Up ナゴヤ！】は、初回 3 月 5 日にスタートし、以後 9 月まで続いた。

先生候補、用務員、ナゴヤを元気にしようと毎日活躍している方々をゲストに、ナゴヤの魅力を語っていただくとともに、大ナゴヤ大学の準備状況を報告する機会となった。

各種新聞社からの取材、雑誌掲載、CBCラジオ番組内でのコーナーなど、この頃の経験が活きた形で活用されている。

【過去の音声ファイル】
http://www.voiceblog.jp/dainagoya-univ/

Think ナゴヤ！ はじまるよ 大ナゴヤ大学

平成 21 年 3 月 14 日 中部経済産業局の 後援により、ナゴヤのコンテンツ・魅力を発見・発信するワークショップ「Think ナゴヤ！はじまるよ『大ナゴヤ大学』」を白鳥庭園 清羽亭にて実施。

前年に中部経済産業局にてナゴヤ・コンテンツの魅力発掘を形にする「大市民会議」で考えた事に関して、実行フェーズとして親和性があるのが大ナゴヤ大学の活動、ということで、実施することになった。

当日は、雨天でスタートの中、姉妹校シブヤ大学のスタッフによるファシリーテーションも実施され、具体的な授業のアイデアなどチームに分かれ議論した。

【大ナゴヤ大学って何？】って思った時点で、「もう既に関わっている」という、名言が名古屋大学付属中学生によって発せられた。

参加者は、伝統芸人、NGOリーダー、企業の社長、市役所参事、福祉、野菜ソムリエなど広く、バリエーションのあるメンバーが集められた。

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

ボランティアスタッフとの交流

オープンキャンパスを 6 月に決定し、説明会として授業の運営を行うボランティアスタッフの募集を、ホームページ公開と同じタイミングで実施。

ちょうど朝日新聞などの取材記事掲載などもあり、募集が増える。

大ナゴヤ大学として最も大事な部分である、主役は生徒であり、一番近いボランティアスタッフ。ホストファミリーがゲストの友人を招き入れる感覚、というマニュアルもシブヤ大学のものをアレンジし、展開した。

オープンキャンパス間近のタイミングでは、授業コーディネーターも参加し、授業の説明・事前状況の把握と交流を行った。

この中より、ボランティアスタッフの中にリーダーが生まれる仕組みづくりの環境をつくり、できるだけ自由で現場で責任を持つことのできる方向性にしていこう、ということで、コアスタッフの中で話し合われた。

最もケアすべきところは、初めて参加する参加者の緊張を解きほぐしてあげることであり、さわやかな気分で授業を楽しんでもらうことであると、相互で確認。

以後、自主的なボランティアスタッフの取り組みが大ナゴヤ大学の中で数々の奇跡を生み出し続けることになる。

オープンキャンパス

大ナゴヤ大学がどんな活動を今後していくのかを実際に見てもらおう、ということで、6 月 13 日に3つの授業を実施した。

【社会】ナゴヤのど真ん中で世界一周！　～1 周 15 分で、あなたは親善大使～　教室：SUNSHINE　SAKAE　ナゴヤ在住外国人(ナゴヤ大好き外国人)　クリス・グレン(ラジオ　DJ／日本歴史研究家)

【体育】え？そんな所まで自転車でいくの？！　～Share the road. 自転車でピクニック！～　教室：名古屋テレビ塔　タワースクエア（Tower Square）　鈴木謙太郎　&　NUTS メンバー(自転車で遊ぶのが好きな人)

【食】名古屋名物シリーズ：“ういろう”の魅力と未来を考えよう！　教室：雀おどり總本店　本店　古橋孝太(株式会社　雀おどり總本店　代表取締役)、甲斐　みのり(文筆家)、市川　櫻子(NPOむすめかぶき　役員)

8 月 8 日 大ナゴヤ大学 夏まつり

第 2 土曜日である 8 月 8 日（まるはちの日）に、開校前の大ナゴヤ大学を広く知っていただき交流する夏まつり企画を開催。

この企画にあたり、ボランティアスタッフによる企画参加、という新しい道づくりが始まった。

先生は、横井　則子(CM ソングシンガー)さん。得意の持ち歌を披露してだいた。

「浴衣特典」という試みもアイデア提案され、「ランの館」中庭にて全員で盆おどりを行った。

横井先生が取材など注目を浴びるきっかけにもつながった。

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

開校式 ＆ 開校記念授業

開校式の会場・アイデアに関する意見が出た中、最終的に決定したのは、「生徒は、先生になることができる」を実現する、地域の散策を行い発見した情報・感想を紹介するスタイルの授業。

会場は、ほとりす なごや納屋橋。

当日は、コアメンバー+ボランティアスタッフが熱田神宮へ開校祈願に向かい、玉串後に熱田神宮の説明を神官にしていただくなど、ここでも授業を実施。

雨の開校式となり、「雑草を愛でる。」の授業では、雨の中を散策してビショビショになった生徒さんも。

開校式では、河村名古屋市長も参加。武士の歴史とともにナゴヤの魅力発掘事業への期待を披露。

9つの授業として散策したメンバーが、一緒になって制作物を創った場の「熱」と内容は圧巻。

【食】原田さとみの“勝手に小倉トースト研究会”

【芸術】街とアートの出会い（あいちトリエンナーレ 2010 長者町プロジェクト 2009 エリア）

【社会】ナゴヤの謎スポット“覚王山”を歩く

【文化】名駅ビル群の近くで発見！ ～のんびり下町「円頓寺界隈」の魅力をつまみ食い～

【社会】モノづくりのまちを歩こう第一弾 『SHIBORI の世界～有松鳴海のレトロモダンな町並みを巡る～』

【文化】B級ナゴヤ発見！コンクリート仏像見学ツアー ～東海珍名所の巨匠が手がけたコンクリート仏像を訪ねる～

【社会見学】堀川歴史探検隊～熱田神宮から宮の渡しまで～

【環境】雑草を愛でる。

【開校式】 いよいよ開校！大ナゴヤ大学 ナゴヤの魅力をみんなで発掘！

前期通常授業スタート（2009 年 9 月より）

9 月より、前期通常授業がスタート。下期にはいる 3 月まで 30 授業、延べ 685 人の学生に、参加いただくこととなった。（上期は 2010 年 2 月まで）

開校式の翌週にはカーフーリーデーで、道路に芝生を貼った場所での授業も。【道路をシェアする】ということで「シェア」にまつわるホームページを企画・開発した方が先生に。

10 月以降は、岡崎へ八丁味噌や岡崎の町並みを散策する授業、イベントの先取り授業、写真のワークショップ、インド人の方に普通家庭料理としてのインドカレーを学ぶ授業など、多様な授業が生まれることにつながった。

年末には、大人気となった柳橋市場の小森たまこ先生に教えていただく、美味しい卵焼きの授業のために、朝早くから名古屋駅にはフライパンを持参した参加者が集まる風景も見られた。

雨の日に実施した、「名チャリ」を利用したオリエンテーリング、万松寺での授業には、「おもてなし武将隊」との絡むイベントが発生するなど、自由な発想とつながりが生まれることとなった。

マルシェ・ジャポン なごやとも連携し、授業の実施から見学ツアーまで行うなど、「食」のテーマには参加者の人気と満足度が高いということも立証されることとなった。

手を動かす授業、街を散策したり得意なものを学ぶということが楽しいということでリピーターが増え続けていることからも重要だということがわかり、その後の授業企画へ反映されることとなった。

シブヤ大学、京都カラスマ大学との合同ツーリズム企画を行い、各地の学生につながりが生まれるという新たな側面が生まれることとなった。

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

さまざまなネットワーク事例

大ナゴヤ大学では、企業・行政・市民活動それぞれを授業という形で提供することで、授業を通じて出会った先生・学生の繋がりで新たな取り組みが生まれる「プラットフォーム」としての役割、ネットワーク基盤としての期待が内外より高まっています。

＜行政との連携＞

【愛知県】街とアートの出会い（あいちトリエンナーレ 2010 長者町プロジェクト 2009 エリア）

【名古屋市】なごや カーフリーデー 2009 特別授業「シェアしてこ！」【名古屋市】名チャリ de 発見オリエンテーリング

＜市民活動との連携＞

【NAGOYA DESIGN WEEK 2009】So Good! So Bad! ～旅人の目で見るナゴヤの街～

【ブックマークナゴヤ】本ってやっぱりオモシロイ！ ～本のお祭り「ブックマークナゴヤ」ってなに？～

＜新しい取り組みとの連携＞

【マルシェ・ジャポンなごや】日本野菜とスパイスの出会い～インド人と作って食べようおいしいインドカレー～

その他、NGO、協会、サークルなどの方々と授業を開催。

行政・地域ステークホルダーとの取り組み

授業以外の関係性で、地域のまちづくり協議会への参画、意見交換会などの対話の場をつくる活動を進めています。

活動の中心地となっている名古屋市内では、地域単位で商店街とも取り組む活動が始まっています。

地域での取り組みに、大ナゴヤ大学で関わられている団体・企業を紹介することで問題解決や新たな継続可能性のあるイベントが生み出されることもあり、同時多発的な活動の触媒となる機能も求められつつあります。

また、名古屋市以外からは、常滑市、長野県飯田市など、ツーリズム企画あるいは地域キャンパスとして連携する取り組みが始まりつつあります。

地域の一村一品運動に参画、都心から参加する方達のきっかけとなるツーリズム企画や、地元の伝統産業とのコラボレーションのネットワーク基盤としても期待が高まっています。

ゼミ化を意識した最初の授業。長者町ゼミ

「今年は楽しんでみんなで散策して来年の『ゑびす祭り』に何かの形で参加しよう！」という授業を、2009 年 11 月に開催しました。

「来年は、トリエンナーレもあるので、第 10 回ゑびす祭りは 10 月に開催です」

散策を行った後、食事を挟み、感想をシェア。その後、翌年のゑびす祭りで何をやりたいかを発表することに。

先生の武藤隆さんによって、それらのアイデアを分類しさらに意見交換。

こうして、ここからゼミが生まれました。

既にゼミ生は 56 名を越し、3つのチームとミッションを持つ形の取り組みへと広がっています。

毎月、定期的にゼミが実施され、コミュニティサイト「ミクシィ」で議事録や毎日のように意見交換が行われる活発なゼミとなりました。

このようなゼミに続けと、食をテーマにした「食ゼミ」や、朝活サークル、補講など、学生・ボランティアスタッフが一緒になって取り組む活動が生まれています。

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

実験室プロジェクト

大ナゴヤ大学では、開校前オープンキャンパスの時より、名古屋工業大学大学院 伊藤孝紀研究室との共同作業で大ナゴヤ大学の活動を通した、「イベント・オリエンテッドなまちづくり」研究に取り組んでいます。

大ナゴヤ大学が毎月行う授業の地区エリア・授業のタイプ・講座内容で街のイメージやブランディングがどのように変化していくか、実際にアンケートなどを利用し、定量的・定性的に分析しています。

①授業づくりの企画への反映

②街づくりを地域で行う上での重要なデータとして活用

③授業を行う過程での出来事、授業を行ってからの広がりを事例として観察し、客観的に分析残していくことで、今後のまちづくり、イベントの参考資料、地域の合意形成などに有効な検証事例となるように取り組んでいます。

今後、合意形成、人間関係や対話、NPO マネジメントなどの教材としてもオープンな形で協力を行っていきます。

学生登録 1,000 人突破

2009 年末、「年内に学生登録数 1,000 人を達成しよう」と、取り組みました。

名古屋駅で大ナゴヤ大学のフライヤーを配布する際には、それぞれが時間のある中で配布に参加したり、多くの方に紹介をする流れが生まれたりしました。

2009 年 12 月 28 日。朝の配布を終えたところ、一本の電話。

「ガクチョー、1,000 人超えましたよ！」

みんなで実現した 1,000 人。「思いは実現する」、ということを改めて感じた学長。

「朝の名古屋駅を元気にしたい！」と、東京の丸の内朝大学の授業でスタートした「ハイタッチ隊」との連携や、1,000 人を超える上でいつも横で会話した「BIG ISSUE」を販売する方とのコミュニケーションなど、普段とは異なるナゴヤも経験できました。

この後、ハイチ支援のチャリティ募金活動も生まれました。

NPO 法人設立（2009 年 12 月 25 日）

2009 年 12 月 25 日、NPO 法人の認証を取得。法人設立申請を行いました。

【設立趣意書】
日本は戦後、経済を中心に急速な復興発展を遂げてきました。しかし、リーマンショックを端とする世界経済の停滞、地球レベルの温暖化・少子高齢化などの課題を持つ日本経済は停滞の色を見せ、同時に経済に牽引されてきた社会全体、あるいは我々の生活そのものについても、将来に対する先行きの見えない不安感に包まれているような感じがします。そんな現在は、今後どのような社会を築いていくのか、あるいは我々ひとりひとりはどのように生きるのか、そういったことを今一度見つめなおす時期だと思います。今後、よりよい社会を築いていくために必要なこと。勿論、為政者をはじめ各界の指導者のような立場にある人々の果たす役割は大きいと思います。しかし一方で、我々ひとりひとりがよりよく生きること。この重要性について我々は再認識しなければなりません。つまり、政治に対しては、よく政策を吟味し票を投じる、あるいは企業の経済活動に対しては、環境に配慮した製品を選択し購入するなど、我々の日常の行為、ひとつひとつの積み重ねこそが今後の社会を形作るのです。また、よりよい社会とは私たちひとりひとりが幸せに暮らせる社会だとすれば、そもそも私たち自身が自分自身の「幸せ」というものについて深く知り、それを実現するよう行動しなくてはなりません。このように、今後社会全体をよりよいものとしていくこと、あるいはひとりひとりが「幸せ」に暮らすということにとっても、我々ひとりひとりがどのように考え、行動するのか、これが非常に大切なのです。そして、考え、行動するために欠かせないもの。それは「学ぶ」ということであり、今社会に必要なのは「学ぶ」という行為を促進する様々な「学びの場」だと考えます。ここでいう「学ぶ」とは、単に知識を暗記することではなく、五感で感じる、何かに気付く、考え方を知るなど、謙虚に何かを吸収するあらゆる行いです。（以下略）

※全文を学長ブログに掲載

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

大新年会、ボラスタ授業企画コンペ

2010 年最初の「大ナゴヤ大学の日」では、新たな一年のスタートをみんなで祝し、抱負と決意を発表する新年会を盛大に開催しました！

2010 年は名古屋にとって開府 400 年という大きな節目。

新年会の目玉イベントとして「大書き初め大会」。新春の清々しい空気の中、熱い思いを筆に託して抱負を書く我が国の美しき習慣を皆で経験しました。

第 2 部では初の試みとしてボランティアスタッフによる「授業企画公開プレゼンテーション大会」を開催しました。

プレゼンテーターとして日頃大ナゴヤ大学を様々な場面でサポートし、大いに盛り上げてくださっているボランティアスタッフ、（通称“ボラスタ”）の企画者本人による熱いプレゼンの後、みなさんにも一票を投じていただきました。

そして、その 3 月は授業として実施へ進みます。

見事に 1 位となった授業企画につながる窓口となって紹介して下さる方が新年会の会場に居て、ネットワークのつながりを感じる新年会でした。

ボラスタ企画授業の実施（第 1 号）

ボラスタ企画授業第 1 位の授業を 3 月に開催しました。

なぜ名古屋にこれほどたくさんの駄菓子問屋が集まる街があるのか、そしてそれはいつ頃から・・・？を知るとともに、有名な駄菓子クッピーラムネ誕生のウラに隠された驚きの秘密などを社長から直接聞くという企画には、沢山の方の募集がありました。

授業の前半は駄菓子問屋が軒を並べる明道町を散策し駄菓子屋問屋さんを営んで 60 年余という「たつや商店」の店主、近藤さん。結婚式のお菓子の予約まで出る大賑わい。

後半はカクダイ製菓を訪問。代表取締役の大橋社長からクッピーラムネの秘密をあれこれ教えていただきました。社長も忘れていた CM ソングを参加者より歌っていただくなどオドロキ体験もあり、社長も感動の様子。

オリジナルクッピーラムネは現在もチャレンジ中。

映画館閉館前イベント（特別授業）

長年親しまれてきて、惜しまれつつも閉館を迎える名古屋駅の「ピカデリー」

このフィナーレを飾るべく、大ナゴヤ大学で特別授業を開催しました！

映画をこよなく愛するピカデリーの支配人と名古屋で活躍する映画館関係者が語る「映画の楽しみ方」をテーマに。ハリウッドの超大作から低予算で製作されたマイナー作品まで、さまざまなジャンルがありますが“観るチカラ”について、お二人の果てしない映画への愛から学ぶことができました。

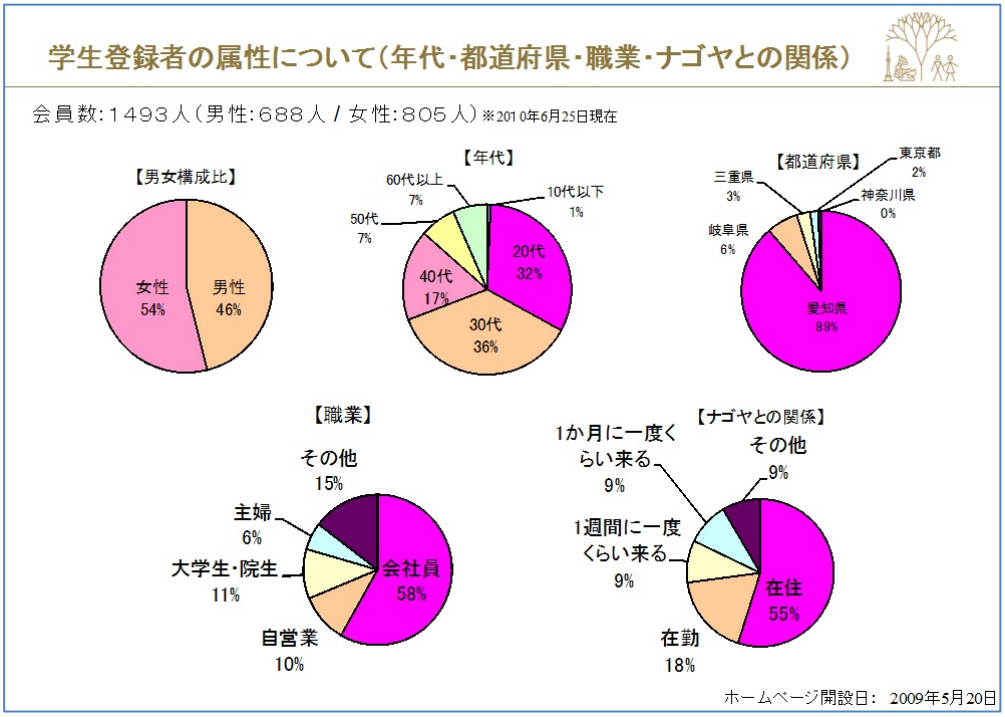
こうした、街の歴史を皆で振り返り、その資源を見直してみることで、また新たな目線が生まれると感じることのできる授業でした。

連日の閉館イベント興業には、この授業をきっかけに会社帰りなどに駆けつける参加者も居て、本当のフィナーレには皆で最後の上映を見終えることができました。

時代とともに古びてみてしまったもの、文化や歴史の中で忘れ去られそうなものを見直す貴重な授業となりました。

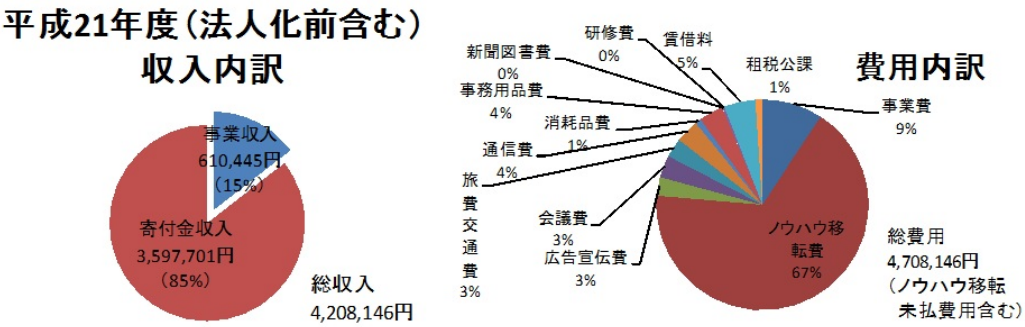
Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

学生登録状況・属性



開校当初に比べ、徐々に 50 代以上の登録率が増えてきました。授業では親を伴う小学生・中学生の参加も見られるようになってきました。男女構成比は、学生登録数の増加に対しても比率はほとんど変わることなく推移しています。生涯教育に携わる現場で、20 代～30 代を中心とした世代が、社会と関わるきっかけが生まれ、そこに期待する企業・行政や団体がコラボレーションの期待が生まれつつあります。全国姉妹校同時協賛授業、ゼミなどもこの可能性を理解されているからでしょう。

収支状況



開校前から、法人会員 1 口 10 万円、大ナゴヤ人 88,888 円、個人 10,000 円の「設立支援サポーター制度」を行い、広く一般の方々より寄付を募った結果、寄付金・募金にて開校を進めることができました。

一方、行政・企業との協賛講座等に関しては、開校前ワークショップのみにとどまり、1 年目は、まず「私たちの大学だ」という存在を目指す方向へ転換しました。

収入に対し費用計上が高いのは、ノウハウ移転に関する費用のうち、1 部（50 万円）が未払いとなっており、次年度へ繰り越しの短期負債となっています。

平成 22 年度には、企業スポンサーによる協賛事業の実施などを進めるとともに、助成金・補助金などの事業も見据え、取り組んで参ります。

平成 21 年度は、経費精算のみに留まり、名目・実質ともに給与支払いが0円でした。

平成 22 年度には有給職員 2 名体制の実現に向け、足がかりをつくるとともに、財務基盤を安定的なものにします。

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

未来への課題。可能性。せっかくいいのに。

＜これからもより地域へ＞　大ナゴヤ大学が目指すところは、どこまでも参加者である学生とその地域に関わっていこう、といもの。より地域での対話の機会を増やし、世代に関係なく声をかけ合うことのできるまちへと、対話の機会を増やしながら取り組んでいきます。

＜持続可能な取り組みへ＞誰もがムリしない。それだけではなく、持続可能な生涯学習を実践する私たちも持続可能を目指します。具体的には、有給職員2人体制の実現と、対話・コミュニケーションのできる場づくり。地域のリーダーとも協力して、全体の魅力をあげる活動を「学び」でつなげます。

＜地域資源の再発見とプロデュース＞今後も「市民・消費者参加によるプロセスのオープン」を通じた「イノベーションの民主化」を行う主体、プラットフォーム基盤として、地域市民による再発見・プロデュース・発信機能を高め、地域の魅力、経済等の活動の発展に寄与します。 例）せっかくいいのにPJ

大ナゴヤ大学はネットワークです。

世界の裏側の、まったく日本人の居ない場所でさえも、6人でそこまでつながることのできる社会。個の時代から自分の身の回りの地域・コミュニティを見直す時が来た、と思います。「半径300mの地域に責任を持とう」はアニメ作家の宮崎駿さんが語っていますが、できる力を持ち寄ること、社会はそこから変わり明るくて色鮮やかになります。授業や周辺活動を通じて、参加者や周りが新たな一歩を歩み出す。まだまだいろいろな人に出会えていない、と思っています。大ナゴヤ大学は、今後も関わる・出会う人たちとともに、活動を通じて全国・世界にも発信するモデルを目指しています。できる限りフラットに、社会には上下がなくお互いが学び合えることができるのだということを今後も取り組んでいきます。一緒にいかがですか？

＜運営団体名称＞
特定非営利活動法人 大ナゴヤ・ユニバーシティー・ネットワーク

＜事務局所在地＞
〒460-0011 名古屋市中区大須 3-42-30　ALA 大須ビル 1B
株式会社クーグート 内（大須オフィス）
※定款に定める「主たる住所」は、「名古屋テレビ塔4F」

代表者名：　加藤慎康（かとうしんやす）　理事長・学長
電話番号：　090-1285-9085（個人）
FAX 番号：　052-262-6658　（株式会社クーグート）
E-mail：　dai-nagoya@univnet.jp

設立（開校）日　2009 年 9 月 12 日
法人登記日　　2009 年 12 月 25 日

DAI-NAGOYA UNIVERSITY NETWORK
大ナゴヤ大学

＜目的＞
1. 広く一般市民に対して、社会教育に関する講演会やイベント、小中学校の総合的な学習への授業カリキュラムの提案等の事業を行い、あらゆる世代の人々が生涯にわたって学び続け、いきいきとした生活が送れる社会の実現に寄与する。

2. ナゴヤに関わるすべての人々がナゴヤの魅力を身近に感じるよう、これまでのナゴヤ、これからのナゴヤの魅力を発見し発信する活動を、「地域密着型の生涯学習」・「新しい地域コミュニティづくり」を通じて実践・継続する。

3. これらの活動を、多くの団体・個人と協力しながら実現する為の「プラットフォーム」としての存在価値を見出し、地域振興を図り、地域経済の活性化に貢献し公益の増進に寄与することを目的とします。

＜活動内容＞
社会教育の推進を図る活動
まちづくりの推進を図る活動
学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
子どもの健全育成を図る活動
情報化社会の発展を図る活動
経済活動の活性化を図る活動

＜理事会＞
理事長
加藤慎康
理事
髙橋佳介、　原田有紀枝
山之内琢治
監事
岡本直人

Web サイトをご覧下さい。
Web: dai-nagoya.univnet.jp
E-mail: dai-nagoya@univnet.jp

（文責）加藤慎康

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved